

# 全 宗 協

Z E N                      S H U                      K Y O

## 神戸市で第十九回通常総会を開催

### 役員改選で理事長に安田松慶氏を再選 副理事長には小堀賢一・井上芳徳・中堂園福丸の三氏

第十九回の通常総会が五月十七日、神戸市の「神戸ポートピアホテル」で開かれ、平成十八年度事業計画などが満場の拍手で原案通り承認された。総会では任期満了（任期は二年）に伴う役員改選も行われ、理事長に安田松慶氏を再選した。安田氏の理事長就任は四十九年（昭和二十二年（一九八七）に発足した全宗協は、来年、創立二十周年を迎える。大きな節目である。副理事長には小堀賢一、井上芳徳、中堂園福丸の三氏が再選された。全宗協はこれからの二年間、安田理事長をトップとする執行部体制で「時代」と向き合うこととなる。

神戸市での通常総会開催は初めてである。昨年のJR福知山線の電車脱線事故で阪奈

**来年の第20回通常総会は北越地区で**

全宗協創立20年を記念して新「組合員之章」の楯を製作



秋の全国研修会は10月17日～18日、京都の「京都ガーデンパレス」で開かれる。研修会のテーマは「人材育成」で、全国中央会補助事業として実施される予定となっている。「企業活性化と女性・青年の役割」、「私の千日回峰行」の講演などが計画されている。

来年の第20回通常総会は、北越地区で行われる。全宗協が発足して来年は20周年を迎える。大きな節目の中での通常総会となる。

この20周年を記念する事業の一つとして、全宗協では写真のような「組合員之章」の文字の入った新しい楯を作製する。

銅製で縦40cm、横30cmの大きさ。年内にも全組合員に届くよう製作を急いでいる。無料配布です。



盛り上がった第19回通常総会

#### 紙面から

- 2 面 理事長に再選されて
- 3 面 ひろば
- 4・5 面 海外研修の旅を終えて
- 6 面 そよ風、事務局から
- 7 面 わが社のイチオシ
- 8 面 頑張ってます

通常総会には全国から二百八十七名（本人出席百六名、委任状出席百八十一名）が出席、盛り上がった総会となった。平成十七年度事業報告などのあと、平成十八年度事業計画（案）が議題に付され、満場の拍手で承認された。

続いて任期満了に伴う役員改選に移り、まず四十八名の理事と三名の監事が選出された。直ちにこの理事らによる第一回理事会が開かれ、理事長、副理事長などが選任された。

理事長に再選されて「遠きをはかる者は富み近きをはかる者は貧す」 安田松慶



理事長に再選された安田松慶氏

全宗協は昭和六十二年（一九八七）に創立した。来年は総会を開きました。来年は創立二十周年を迎えることになりま

の「新しい情報を知りたい」という強い願い、加えて業界の先行きへの危機感のようなものを肌で感じている方が多いからだと思えます。それが全宗協活動への期待となって表れてきているのだらうと受け止めております。

なりません。それにはお彼岸やお盆といった国民的な仏教行事を広く深く浸透させることです。今、忘れられがちなそうした行事のキャンペーン、啓蒙を推し進める必要があります。

創立二十周年を迎えることになりま  
す。大きな節目の年となるわけですが、  
全宗協では創立二十周年を記念して、「組  
合員之章」の楯の作製に取りかかって  
おり、年内にも皆さんのお手元にお届  
けできる予定です。組合員の皆さんに  
大いに期待されるステータスのある全  
宗協を目指して、一層の努力を傾注し  
て参りますので、今後とも従来にまし  
てのご支援を切にお願いする次第で  
す。全宗協組合員数は、この一年間  
に四十六人の方々に加入いただいたこ  
とで、創立当初の三百七十七人に戻り  
つつあります。増強の背景としては、  
仏事コーディネート制度がスタート  
したことが一番の要因として考えられ  
ますが、それにもまして、業界の方々

しかし私たち業界だけでは力が及び  
ません。やはり仏教界などとの連携が  
どうしても必要です。全日本仏教会と  
いう組織がありますが、全日本仏教会  
に墓石業界、葬儀業界とともに何らか  
の形で参画し、意見交換等をして一つ  
の大きな力にしていくことが大切では  
ないかと考えています。

私たちがそうした現実を現実として  
捉える必要があるのだらうとは思いま  
す。同時に、そうならないよう全宗協  
として、「巻き返し」に努力しなければ

二宮尊徳翁は「遠きをはかる者は富  
み、近きをはかる者は貧す」という言  
葉を残しました。お店の経営にとって  
目の前の利益をあげることは極めて大  
事なことであることは論を待たない  
ところですが、将来を見据える視点を持  
つことも大切です。その理念を持って  
業界発展と私たちの後に続く若い人た  
ちのために頑張らなくてはなりません。

分科会

第十九回通常総会に先立ち、「製造業」「卸売業」「小売業」の三つの分科会が開かれ、活発な意見交換が行われた。主な意見は次の通りで、今後理事会に諮り、採り上げられるものは事業化に務めます。

〔製造業部会〕

十七人が参加した。「原材料が高騰している中、海外品の増加による価格低下が続いている。国産品との差別化が必要である」という意見や、「国内組み立てが増え、従来の国産基準が合わなくなっている。地域ブランド化を考えざるを得ない」との声

も出された。また、近年、仏事・祭りごとによる売上げが伸びない。お盆や彼岸のPRをもっとすべきた」という提案も出された。

四十一人という大勢の人たちが参加した。「海外品の品質向上がみられず、業界のイメージダウンにつながる。産地表示や品質表示の徹底が望まれる。諸材料費の値上がりにもかかわらず、値引き競争がひどい。公正競争に戻すべきた」という意見のほか、提案も多く出た。「古仏壇、仏具の処分

〔卸売業部会〕

二十一人が参加した。「海外品の増加や小型・多様化(家具類)のトレンドはもう止められない。高級品が売れない。産地表示や品質表示を徹底し、差別化を図る必要がある。」「葬式産業から生前産業(生前仏壇)へ脱皮すべきた」といった意見、さらには、従業者の知識不足が目立つ。情報共有のソースや勉強の場が欲しい」という声が出された。

に困っている。組合でサイズ別の処分料金を定め、全国に公表すべきたある。」「仏壇の日とか花祭りの話題づくりをし、全宗協から発信すべきたある。仏教会との交流およびイベント共催を考えてもよい」

副理事長に選任された3氏



小堀賢一氏



井上芳徳氏



中堂園福丸氏



専務理事に選出された西春貞男氏



「お釈迦さまの生涯」を話す山中眞悦住職

通常総会に先立ち役員会のほかに、製造業部会、卸売業部会、小売業部会の三つの分科会も開かれ、活発な意見が交わされた。

総会後には講演会と懇親会があり、情報交換が続いた。講演会では、「ぼつくり寺」の名で知られる奈良・吉田寺の山中眞悦住職が「お釈迦さまの生涯」と題して話した。

新規加入の組合員の皆さん

氏名	住所	敬称略
轟木一博	鹿児島県川辺郡川辺町平山	
大西正也	東京都港区南青山2-26-34	
久保仁人	鹿児島市中町8-9	
田中嘉男	愛媛県今治市室屋町3-1-22	

通常総会の役員改選で決まった役員は以下の通り。

- 〔代表理事(理事長)〕 安田松慶
- 〔副理事長〕 井上芳徳・小堀賢一・中堂園福丸
- 〔専務理事〕 西春貞男
- 〔常任理事〕 保志正之・内田長祐・笠原他喜雄・菱田孝行・橋本晃一・片川昭夫・濱田博邦・高山正・藤本晃史・塚本弘喜
- 〔理事〕 奥山英俊・浅野敏夫・小野隆市・青山武史・滝田雅俊・坂田晴義・辻幸明・前田平成・廣川勝彦・木本隆久・池田典明・杉田龍雄・濱島賢祐・小長井由朗・三枝紀元・澤忠知・長坂忠明・伊藤博昭・神戸良司・岸本光史・佐倉弘・山中誠人・頓名公三郎・中田信浩・今浦公博・田戸孝雄・三村博昭・上林良得・今山秀人・森正・井ノ口敬三・白川十郎・吉川礼蔵
- 〔監事〕 山田宗宏・福井明夫・本俣実

## 今年の仏事コーディネーター試験

受験希望者の出足、順調です  
申込み締め切りは8月31日です



仏事コーディネーター資格審査協会発行の『平成18年受験のご案内』



受験の受け付けは通常総会を皮切りに始まった。受験申請書類を受け取る人の表情は緊張気味だった。

今年の仏事コーディネーター試験は11月15日(水)に行われます。

その受験受け付けが通常総会の日から行われています。申込みの締め切りは8月31日ですが、受験希望者の出足は順調で、現在の状況だと受験者は200人前後になりそうと予想されています。

仏事コーディネーター資格制度は一昨年スタートしました。今年の試験は3回目にあたります。

今回も東京と大阪の2会場で行われます。昨年と同様に受験に先立って講習があります。講習は「仏教の基礎知識」「仏事(慶弔)に関する知識」「仏壇仏具の製品知識」「仏壇仏具の販売知識」「仏事コーディネーターの使命と心がまえ」の5つです。

試験は、この5つの講習のうち、「使命と心がまえ」以外の4項目と×式・選択式の併用で出題されます。合否の判定は講習出席の有無が重要なポイントになりますので、ご注意ください。

受験申請書類と資料請求は、仏事コーディネーター資格審査協会(電話・FAX 03 3665 1610)で受け付けています。(仏事コーディネーター資格審査協会から)

日頃の疲れ、飛んでけ～



神戸市めぐりオブショナルツアー。神戸港ハーバーランドで

神戸市での第19回通常総会翌日は、神戸市内をめぐるオブショナルツアーと親睦ゴルフコンペで日頃の疲れを癒した。

オブショナルツアーには11人が参加。中華料理の昼食や明石海峡周遊クルーズなどを楽しんだ。六甲国際ゴルフ倶楽部で行われた親睦ゴルフコンペには20名が参加した。終わって理事長賞などが13人に贈られた。表彰式も昼食をとりながらの和気あいあいだった。

親睦ゴルフコンペ成績(3位まで)  
今井浩之 佐倉弘 前田憲一



ゴルフコンペの表彰式

総会翌日はオブショナルツアーと親睦ゴルフ

先日、この『ひろば』の原稿依頼を事務局よりいただいた時、是非語っておきたいと思っていたことがあった。それは、私の地元富山で毎日出版され、郷土富山をいろんな角度から分析紹介するミニコミ誌がある。その中で、「富山の仏壇」が特集されたことがあります。その雑誌に少々原稿を書いたのである。以下、書き始めの部分のみを紹介してみます。

## ひろば

### もっと知ろう！お仏壇の歴史

富山市の(株)木本佛具店 木本 隆久



木本隆久氏

研究が進んだ分野としては、仏像、寺院建築、襖絵、庭園、そして当然のことながら経典、一宗一派文教開宗された祖師達の思想などが挙げられる。反面、一般在家居(家庭用)の仏壇や荘厳具としての仏具に

大体以上の要旨をその当時、私の感じるままに述べたのだが、最近になって矢張り、私の考えが足りなかったのではないかと思いうようになった。現代の様式をもつ在家居用仏壇の製作展開

つい思いたくなるのですが、社奉行管理下のもと公儀(幕府と呼び捨てにしたのは桜田門外の変以降)の赦しをえて各地に寺院が建立され、その後、お寺に集う門徒(檀家)のお内仏が、新たな内需として展開、今日に至ったのではないだろうか。

そう考えますと、長い仏教の歴史の中では、百数十年の伝統ということになり、研究量が少ないのも成程と思ったりもします。

もし、この国が、神道だけの伝統しかない、仏教公伝がなかったら、とても今日のような工芸国家としての隆盛、それが各分野に及ぼした測りしれない影響力はなかったのではないかと思います。全宗協各会員の皆様のご意見、是非お聞かせ下さい。

仏教公伝五五二年より今日まで千四百年余りの歴史の中で、仏教がおよぼした文化的経済的影響は計り知れない。しかし仏教とその周辺を見渡したとき、比較的に評価研究されている分野と、そうでない分野とがあるように思われる。

ついでにはあまり研究が深められていないように、昭和四十年代以降の各家庭へのめざましい普及を見るにつけ、不思議な感じすら受ける。

は、その地区によって、また宗派の構成によつて若干の時間差はあるでしょうが、西暦千八百年代天保年間あたりから広がったのではないと感じています。仏教公伝以来、すぐにもお仏壇があったのではと、つい

実り多く、有意義な旅でした!!

# 全宗協初の海外研修に二十七人が参加

## 仏壇製造工場やアンコールワットを見学

ベトナムとカンボジアをめぐる全宗協初の海外研修は四月十七日～二十一日の日程で行われた。研修には東京、福島、栃木、神奈川、石川、愛知、三重、富山、京都、滋賀、福岡県など全国各地から二十七人が参加した。「実り多く、有意義な旅でした」二十七人は誰もが口にした。旅の風景を写真を中心に紹介する。



アンコール遺跡群は9世紀から15世紀にかけインドシナ半島を制圧したクメール王朝の首都跡。城壁に囲まれた巨大なアンコールトムの石造りの建造物は圧巻だった



18日午前、研修の旅が本格始動。バスでアンコール遺跡群に向かう



アンコールワットの壁面に彫られた彫刻の説明に耳を傾ける



アンコール遺跡群見学を終えて、木陰で一休み。果物売りのカンボジア女性（左から3人目）を囲んで



夜はカンボジアの民俗舞踊を楽しんだ



トレンサップ湖を舟でめぐる



アンコールワット（向こうに見える塔）を背に、カンボジアの僧侶にも加わってもらい記念の1枚。カンボジア僧は快く応じてくれた

研修団（総団長＝小堀賢一 事業委員会委員長）は、羽田空港出発の羽田組（十六人）と関西空港出発の関空組（十一人）の二グループに分かれて、十七日午前日本を発ち、午後、ベトナムのホーチミン市に着いた。ここで航空便を乗り換えて、夕刻、世界遺産になっているアンコール遺跡群観光の拠点都市となってい

るカンボジアのシエムリアップに到着した。研修の旅は翌十八日のアンコールトム、アンコールワットの遺跡群観光を皮切りに本格始動した。翌十九日は東南アジア最大の湖であるトレンサップ湖を舟でめぐった。トレンサップ湖では今も水上生活を営む人たちが多く、その“現実”の姿を目にし、誰も



水上生活をする人たちの家、家。27人が乗る船に向かって少年が“タライ舟”を漕いで近寄ってきた。少年は船縁につかまり、声をあげて物をねだった。その姿には心が痛んだ



初の海外研修を無事終えて  
全宗協事業委員会副委員長  
池田 典明  
ベトナムとカンボジアをめぐる全宗協初の海外研修は無事終えることができました。研修には二十七人という多くの方々が参加されました。私も夫婦で研修団に参加させていただきました。今回の海外研修が成功裏に終わることができましたのも、皆様の熱いご支援があったればこそと感謝しております。今、ベトナムとカンボジアは国民あげて国づくりに取り組んでいます。エネルギーシユなその姿を目の当たりにすることができました。また、ベトナムのホーチミン市では、金倉仏光堂様のご厚意により、同社の仏壇製造工場を見学することができ、さまざまに勉強になりました。有り難うございました。本当に有意義な旅だったと思っております。

当初、海外研修は中国が考えられていたのですが、日中関係が思わしくないことからベトナムとなりました。しかしベトナムだけでなく、仏教と関わり深いカンボジアのアンコール遺跡群の観光もコースに組み込むこととなりました。

日程として当初は三月が考えられました。しかし三月は彼岸の関係で避けることとなり、代わって



ベトナム人従業員の取りまとめ役をしている女性責任者のリユー・クエ・チャオさん(中央)、左は金倉光治社長



ホーチミン市の金倉仏光堂の仏壇製造工場では、大きな歓迎の幕で27人を迎えてくれた。後列右から4人目が金倉光治社長



仏壇製造工場を熱心に見学



一心不乱に仏壇づくりに取り組むベトナムの人たち。工場では490人が働いているということだった



「一心不乱に仏壇づくりに取り組むベトナムの人たち。工場では490人が働いているということだった」

が日本の豊かさを改めて実感した様子だった。  
トレンサップ湖めぐりを終えたあと、ホーチミン市に飛び、ここで一泊し、翌二十日にホーチミン市にある金倉仏光堂(香川県高松市、金倉光治代表取締役社長)の仏壇製造工場を見学。仏壇製造工場に隣接している靴製造工場も併せて見学した。この靴工場では現地の女性たち六千人が働いていた。  
この後、ホーチミン最大のペンタン市場などを散策。そして金倉仏光堂の金倉社長を囲んでの夕食会。終わって夜遅くのベトナム航空で、羽田

組と関空組の二グループに分かれホーチミンを発ち、二十一日早朝に帰国した。  
ベトナムとカンボジアは五月〜十月が雨季。その直前の四月頃が一番暑い。連日三十度を超す「猛暑」だったが、二十七人は疲れも見せず、経済復興と生活向上に国をあげて取り組む二つの国の風光を目に焼き付けた。中でも仏壇製造工場の見学は有意義だったという人たちが多く、「大変勉強になった。物づくりについて考えさせられた」という声や、「来年以降も海外研修は継続して実施したらどうだろうか」という意見が聞かれた。



ホーチミン市の観光名物の一つはバイクが多いことだ。どの通りも、日本人はとても怖くて向こうに渡れないほどの流れだった



ホーチミン市の街角で



帰国を前に金倉社長を囲みホーチミン市で。右から2人目が金倉社長、3人目が総団長の小堀賢一氏

五月案が出たのですが、現地は五月から雨季に入りますので適当でないとなり、結局三月と五月の間をとって四月となりました。  
ご存知のように、ベトナムとカンボジアの両国は悲惨な歴史を持っています。ベトナムではあのベトナム戦争があり、カンボジアではポル・ポト政権による虐殺などがありました。その傷は今も色濃く残っています。私たちのガイドをつとめたカンボジア男性は「私の父はポル・ポト政権によって虐殺されました」と私たちに話しておりましたが、その言葉には心が痛みました。そしてカンボジアのトレンサップ湖では水上生活を余儀なくされている多くの人たちを目にし、日本の豊かさを改めて実感させられました。

仏壇製造工場見学では、金倉社長様が一日中私たちに付き添って説明にあたってくださいました。このことにも感激致しました。

研修の旅は、羽田空港組(十六人)と関西空港組(十一人)の二グループに分かれて日本を発ち、現地で合流しました。帰日も二グループが別便だったのですが、研修に参加された方々は、指定された集合時間にはピタッとお集まりになるなど、お一人お一人が心を配ってくださいました。

有意義な旅であったと同時に、和気あいあいの旅でもありました。この旅は長く皆さんの心に残るものと思っています。

全宗協海外研修に参加させていただいて

滋賀県彦根市 ㈱永樂屋 宮川富子



宮川富子さん

去る四月十七日から二十一日まで全宗協初の海外研修として実施してくださいましたカンボジア・ベトナムコースを主人と二人で参加させて頂きました。前々からアンコールワットもベトナムも是非行ってみたいと思っていた所でした。主人はすでにカンボジアもベトナムも訪問済みで、「今回の研修旅行もその時のコースとよく似ているしなあ」とあまり乗り気でなかったのですが、渋りがちの主人に頼み込んで連れて行ってもらうことになりました。

私たち夫婦は関西空港組の皆様と一緒に一緒でした。お顔見知りの方もあれば初対面という方もあって、飛行機に乗る前からいつもの家族旅行とは違う雰囲気、少しワクワクしました。ベトナムのホーチミンで成田組の方と合流ということだったので、カンボジアへの乗り継ぎの飛行機も別便でしたので、結局お出合い出来たのはカンボジアのシエムリアップに到着してからでした。こういう海外での現地合流というのはなかなか楽しい気分のものでした（私達をお世話してくださった方々はさぞ大変だったろうと思います）。いつまでも寒かった日本列島が

ら気温三十五度〜四十度の地へ降り立った私たちは、入国審査を待つ間、すでに汗だくでした。クーラーも無く、トタン屋根の天井で申し訳なさそうに扇風機の大きな羽根がゆっくり回っていました。バスに乗り換えて着いたホテルは、町には不似合いなほど立派な建物でした。以前主人が来たときからは驚くほどの変貌ぶりだそうです。

あくる日からのアンコールトム、アンコールワットの観光は、暑さの中でまるで「行」のようでしたが、現地ガイドの一見タイガー・ウッズのようなお兄さんの流暢な日本語と親切な案内で、タイムスリップしたように歴史遺産の中を歩きました。時代を考えますと、「よくそこのようなものがこの場所に来たもんじゃない」と感じるばかりでした。信仰と政治の狭間で壊されたり造り直されたり、時代の変遷の跡が見え、戦渦を潜り抜けて現在も存在し続けるその威容は、言葉では語れないものを感じました。歩く、登る……。登った後は勿論ですが下ります。「足腰の元気な間に来てよかったな」と思いましたが、周りの先輩方が少しも弱音を吐かれないの

には感服しました。

現地は雨季の直前で一番水の少ない時期でした。東南アジア最大の湖といわれるトレンサップ湖も三分の一の大きさということでした。湖までは普段は湖の底という筆舌に尽くしがたいほどのごぼごぼ道をバスで2時間。そして、スクリューが水面から出て川底のドロを飛ばしながら何とか湖まで出ると、そこには水上生活者の船といます。水上住宅がたくさんあり、生活排水などのさまざまなおいが湖上を覆っていました。途中で見た道沿いの現地の人達の生活や、私達の船にプラスチックの桶の舟を漕ぎつけて物乞いする子供たち。三百万人といわれるベトナム難民の、生きるだけで精一杯の姿を見て、少なからずカルチャーショックを受けました。

私達のガイドをつとめたカンボジア男性のお父さんは警察官だったそうですが、彼が二歳のときにボル・ポト派の虐殺で亡くなったと、話しておりました。今もその言葉が心に残っています。トレンサップ湖からシエムリアップに戻り市場を見学しましたが、ここでも日本の生活の水準の高さを改めて実感しました。

ベトナムのホーチミンでは小堀団長ご夫妻と金倉仏光堂の金倉社長と合流し、賑やかに会食。この頃には皆さんどなたも打ち解けて本当に和やかで、楽しい仲間の会の方でした。金倉社長のご厚意により、仏壇製造工場ばかりでなく靴製造工場も見学させて頂きました。ものすごい人数の現地ベトナムの女性たちがズラリと並んで作業をしていました。その様子を見たときは、戦後彦根でカネボウ、近江絹糸などの紡績工場へ沢山の女性達が集団就職で働きに来ておられたことを思い出し、何かいつの時代も国の復興の礎（いしずえ）は女性なのかもしれないと思つたことでした。

そんなこんなで私にとつてこの度の研修旅行は、非常に収穫の多い旅となりました。私の体を突き動かしたカルチャーショック、そしてなによりご参加の皆様との楽しい心の通い合うご縁を頂けたこと、帰りのホーチミンの空港で成田組の皆様とのお別れが本当にお名残惜しく感じられたものでした。

また次の機会にも是非参加させて頂きたいと願っています。最後になりましたが、この海外研修を企画実施していただいた全宗協の事業委員会と、関西組を最後までお世話してくださった池田事業委員会副委員長様に心より御礼申し上げます。有り難うございました。

事務局からのお知らせ

1. 新しい名簿を作成しました。7月上旬にお送ります。  
今回から、主な業態とE-mailアドレスを新たに編入れました。
2. 皆さんの投稿をお待ちしています。  
会報18年3月号から投稿欄を設けました。仕事に関する提案や意見、趣味やスポーツなどのエッセイ、本紙へのご感想、短歌・俳句・川柳などを募集しています。  
紙面の主なものは、「わが社のイチオシ(新商品紹介)」「そよ風」「ひろば」「頑張ってます」などです。原稿にご自身のカラー写真1枚を添えてお送りください。
3. 賦課金、その他全宗協への振込先は右の通りです。お間違えのないように！

口座名：「全日本宗教用具協同組合」  
三菱東京UFJ銀行銀座通支店(普)189695  
みずほ銀行銀座通支店(普)2088398  
郵便振替 00100 4 717976

4. 経済産業省及び全国中央会から次の通知がありました。
  - (1) PSEマークを付する際に必要な自主検査に対する支援について
  - (2) 平成18年度官公需業種別受注対策事業実施組合の募集について
  - (3) 障害者雇用の一層の推進に関する要請について
  - (4) 高年齢者雇用安定法の改正について(65歳までの雇用確保)
  - (5) 平成18年度組合等中小企業連携組織指導事業「個別専門指導事業」「組合コンサルタント指導事業」について



『仏花』

大阪市中央区  
東心斎橋2丁目5番13号  
株式会社武部元吉商店  
電話 06 6211 6046

ブリザーブドフラワーで仏花を造ることにより、お水をあげなくても枯れず、生花が飾れない納骨堂でも飾ることができ、1年以上、生のお花のように楽しめます。消費税込み6,300円（花の大小で上代も上下します）

『セーヌ20号』

静岡市駿河区丸子赤目ケ谷  
6288 1  
株式会社丸玄工芸  
電話 054 257 5555

楡柁目ムクの置き須弥壇（取り外し可）です。須弥壇の裏に隠し引き出しがあります。模様は木象嵌、LEDD。ライト付き。扉にマグネットが埋め込んであります。価格は税込み26,250円。



『屋久杉総練志恩南天障子オープン仕上げ』

香川県高松市東八幡町13 1  
ずんや株式会社  
電話 087 865 2333

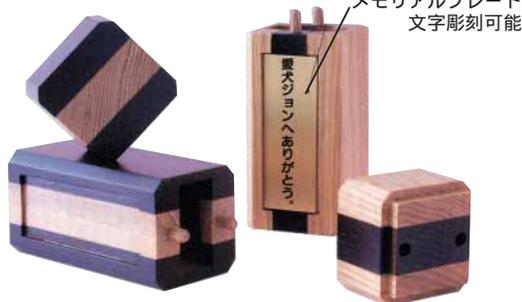
樹齢1000年以上の銘木屋久杉。その中でも木目が美しい孔雀空を使用した国産仏壇です。ほかに黒丹、本紫丹、本ケヤキもあります。価格は税抜き6,900,000円。



ペット仏具『Woody・ウッダー』セット

埼玉県川口市上青木1 7 4  
有川本商店  
電話 048 254 2222

ペットを対象としたものですので、あまり仏具ということを感じさせないようなデザインを考えました。木目を活かして、暖かく、そしてモダンをコンセプトにした商品です。ダークブラウンとライトブラウンの2色があります。価格は税込み3,003円



知恵とアイデアを絞ったわが社の“イチオシ商品”をご覧ください。お問い合わせは直接当社にお寄せ下さい。お待ちしております。直ちにお応えします。数字は参考上代です。なお、今回は卸売業49社に呼びかけました。次回は別の業態のお店にお声をかけます。

『極品・薫翠』

東京都中央区日本橋小網町11-6  
株式会社こもりコーポレーション  
電話 03-3666-8886

奥野晴明堂8代目当主である現代の匠「沈香屋久次郎」が、280年の歴史と積年の思いを胸に、精魂を込めて調香し、新たな世に問う極品のかおりです。選りすぐり、時をかけて育んだ深くまるやかな沈香のかおり。清楚で心にしみる香りは、悠久の時を思わせ、例えるならば現代の“わび”“さび”と言えます。いずれも税抜きで大は5,000円、中は3,000円、小は1,500円。



『会津金虫喰塗背高仏膳椀』

福島県会津若松市インター西56 4  
株式会社小野屋漆器店  
電話 0242 24 4040

江戸時代より刀の鞘塗りとして会津で発展した技法です。漆を塗った上に糊殻を付着し、乾燥後、糊殻を落として虫喰模様をつくり、銀粉を蒔き、その上に透き漆を塗り砥ぎ出して仕上げます。虫喰模様が深みのある美しい金色に輝き、黒漆と独特の色相を醸し出します。高月、茶台、りん台などのセットも可能です。価格は6寸5分（6.5寸）税込み77,280円。



『お線香・天華』

名古屋市中区松原2 9 5  
有川三本本店  
電話 052 321 2866

優雅なローズを基調とした心を和らげる癒しのヒーリング。現代感覚に合わせた微煙、微香タイプのお線香です。ポプリ天華ローズの姉妹品として天華シリーズも発売しています。価格は税抜きで¥プリ天華バラ（大）1300円、銅バラ（小）750円。



# 頑張っています

## 加盟してよかった全宗協を目指して

中国地区からの報告 中国地区協議会会長 高山 正



高山 正氏

中国地区の現状を言いますと、岡山・山口・鳥取・島根地区の加盟店は散らばっており、その地域には同業者の組合も無く、社会環境や情報交換等全宗協に期待されることは多々ありません。

また、広島市には多くの会員がいます。ご存知のように広島市は仏壇の伝統的工芸品の産地であり、その組合として広島宗教用具商工協同組合と、広島卸商組合の二つがあります。以前は多くの方が全宗協に入会されていましたが、残念ながら退会された方も数名お

ります。

昨年十月二十六日・二十七日と島根県益田市の㈱ひよまの本井さんのお世話で一泊二日の地区大会を行いました。少人数でしたが、中国地区の総会・お寺さんの講演と夜の懇親会、翌日はゴルフと楽しく有意義に過ごしました。

の全宗協の活動で、国産仏壇の統一表示、仏事コーディネート・「日々感謝」のポスター・シール作成等は、社会環境の変化に対して宗教用具を扱う専門店として評価されます。

年に一回の地区会ですが、以前から気になることがあります。全宗協に入会され一度も会っていない会員の方や、会わないうちに退会された方がおられることに、地区長として改めて反省しています。

他方で専門店としての位置づけにさまざまな意見が出ています。仏壇・仏具の専門店から墓石や葬儀も加わっているのも事実ですし、その逆もあります。会員拡大に対して今一度工夫がいる意見も出ています。

地区会では全宗協加盟店へのメリットや意義がよく問われます。特に仏壇・仏具の専門店としての立場からの意見が多くあり、最近

仏教離れ・人口の減少等取り巻く環境は厳しくなり、専門店としての生き残りをかけてやっていくことになります。加盟してよかった全宗協に向かって中国地区も積極的に活動していきます。

## 新しい組合員も各地区協議会活動に参加してください！

全宗協の組織は、全国九つの地区協議会で構成されています。

そして各組合員は、それぞれ地区協議会に所属し、地区会員として事業活動を行う

ています。地区全体会議及び研修会等に積極的に参加され、より一層組合事業の推進に協力されるようお願い致します。

(理事長、各地区協議会会長より)

## 訃報

地区名	逝去日	組合員	逝去者
東海地区	18年5月1日	堀内木工(株)	ご母堂恵美子様 享年68歳

## 編集後記

全宗協初の海外研修の参加者は二十七人を数えた。当初は「十五人前後だろうか」という観測も流れたが、フタを開けてみると、三十人になんなんとという研修団に膨れあがった。「これほどの参加者があるうとは」という、驚きにも似た声は組合員の間で起きたほどの「大人数」となった。

その背景は何なのだろう。直接的には、アンコールワットという世界有数の観光スポットと、ベトナムのホーチミン市にある仏壇製造工場見学の一つがコースに組み込まれていたことが大きな誘因と考えられるが、もう少し言うならば、今の全宗協の「力」がこの二十七人という数字に表れたといつてよいのではないだろうか。

仏事コーディネート資格制度の導入に続き、今、全宗協では「青年部・女性部の創設」などが具体化されようとしている。ひとことと言ふなら「メリットのある全宗協へ」と変貌を遂げつつある。加えて組合員の増強も著しいものがある。そうしたパワフルな動きが、今回の海外研修に多くの組合員を呼び込んだのではないだろうか。

参加者は誰もが「様々に知ることができ有意義だった」と口をそろえる。ベトナムはベトナム戦争という悲惨な歴史に翻弄された。カンボジアもまた、長い内戦とポル・ポト派による虐殺の歴史を持つ。経済は目に見えて復興しているとはいえ、日本と比べればまだまだであり、人々は貧しい。私達日本人はそうした人達と「同時代」を生きている。今回の旅は改めてその点を気付かせてくれた。

海外研修が成功裏に終わった数日後、「食」に関する記者発表会を聞く機会があった。来年四月に東京で第一回の「グルメ&ダイニングスタイルショー2007」を開くという。その記者発表会であった。このショーは「プレミアムフードと食の新ライフスタイルの発見と創造」をテーマとしている。

仏壇仏具業界とは直接結びつかない「食」の記者発表会を聞いてみようと思ったのは、発表会の雰囲気を知りたいと考えたからだった。会場は百人を超す雑誌編集者やカメラマンらでいっぱいだった。「食」の市場は七十四兆円といわれる。市場の大きさはともかくとして、第一回のショーは、この発表会に集まった人達によって、パッと世の中に「宣伝」されることになるのだろう。

これから全宗協も、さまざまな事業化が検討されている。世の人々に全宗協の活動の有様を発信してゆくには、活字や映像メディアを上手く利用することがもっと考えられてよいように思えてならない。業界内部に向けての情報発信だけではなく通用しない時代である。「食」の記者発表会の会場の片隅で、そんなことがしきりに思われた。